

Title: 「明日はどっちだ」



徳田 敬大
Keita Tokuda 1985年
生まれの食べさか
り。世界という大海
へ向け、今、旅立と
うとしています。

● 最近のエントリー

📅 [ハリラヤハジ](#)
(2009.12.10)

● アーカイブ

- 📅 [2010年10月](#)
- 📅 [2010年09月](#)
- 📅 [2010年08月](#)
- 📅 [2010年07月](#)
- 📅 [2010年06月](#)
- 📅 [2010年05月](#)
- 📅 [2010年04月](#)
- 📅 [2010年03月](#)
- 📅 [2010年02月](#)
- 📅 [2010年01月](#)
- 📅 [2009年12月](#)
- 📅 [2009年11月](#)
- 📅 [2009年10月](#)
- 📅 [2009年09月](#)
- 📅 [2009年08月](#)
- 📅 [2009年07月](#)
- 📅 [2009年06月](#)
- 📅 [2009年05月](#)
- 📅 [2009年04月](#)
- 📅 [2009年02月](#)
- 📅 [2009年01月](#)
- 📅 [2008年12月](#)
- 📅 [2008年11月](#)
- 📅 [2008年10月](#)
- 📅 [2008年09月](#)
- 📅 [2008年08月](#)
- 📅 [2008年07月](#)
- 📅 [2008年03月](#)
- 📅 [2007年11月](#)
- 📅 [2007年10月](#)
- 📅 [2007年08月](#)
- 📅 [2007年06月](#)
- 📅 [2007年05月](#)
- 📅 [2006年10月](#)
- 📅 [2006年09月](#)
- 📅 [2006年08月](#)
- 📅 [2006年07月](#)
- 📅 [2006年06月](#)
- 📅 [2006年05月](#)
- 📅 [2006年04月](#)
- 📅 [2006年03月](#)

● ブックマーク

学校法人 日本写真芸術専門学校
NIPPON PHOTOGRAPHY INSTITUTE



5.0

明日はどっちだ > 2009年12月 アーカイブ

09.12.10

ハリラヤハジ

2009年のハリラヤハジ(Hari Raya Haji)は11月27・28日でした。
またの名をハリラヤアイディルアドハ(Hari Raya Aidiladha)。

メッカ巡礼のお祝いです。
コルバン(Korban・犠牲)とも言います。

なのでクアラトレンガヌ州のカンボン・パシール・ラジャ(Kampung Pasir Raja)の
アドナンさん宅へ行ってきました。

カンボンはマレー語の村。

パシール・ラジャは、パシールが砂でラジャが大様を意味しています。

昔々、クアラトレンガヌ州の大様が毎年この村の川沿いの砂地へ

キャンプをしに来ていたそうです。

それ以前は決まった名前は無かったそうなのですが、

村・砂地・大様 でカンボン・パシール・ラジャという名前になりました。

イスラム教徒にはいくつかの義務があって、その内の一つがメッカ巡礼です。
メッカ巡礼を終えたマレーシアのイスラム教徒たちがこの時期に一斉に戻ってくるため
空港は迎える家族や友人がたくさんいるそうなの。

ハジ(haji)とはある決まった時期、作法にのっとってメッカ巡礼を終えた男を意味していて

名前に「ハジ」と付ける事ができます。女性はハジャ(haja)

だから、もしマレーシア人の名前に haji と付いていたらその人は巡礼を終えた人です。

メッカ巡礼は昔のマレーシアのイスラム教徒にとってすごく、すごく大変なことでした。

なんせ遠いので、長期間の船旅に耐える体力とたくさんのお金が必要だったとのこと。

しかし今は、マレーシア政府が巡礼を奨励・援助していて

タブン・ハジ(tabun haji) という金銭的支援があります。

メッカの街も巡礼者の数を制限していて、みんながみんな積み立てをすれば行ける。

ということではないそうです。

KLはブドラヤ・バスステーションからトレンガヌ州のドゥンゴン(Dungun)まで。

当初、受付の人に言われた6時間をとうに越して合計10時間のバス旅。

やはりみんなの休みは一緒で、そりゃ混みますね。。

到着するとアドナンさんは迎えに来てくれていて、ドゥンゴンからまた1時間半。

こらまたなかなか遠かったです。



昔のこの村は他の町まで道が繋がってませんでした。

村人たちは毎回ボートで川を下り1日から2日かけて

一番近くの町ドゥンゴンまで行ったそうです。

今はアスファルトの道路が隣の村や町まで繋がっていますが、

それでも60kmくらい離れてます。

村の外の学校へ通っている子によると

パシール・ラジャの村にはマレー系の人しか住んでおらず、

その子が13才になって町の学校に通い始めて、

初めて中華系やインド系の友達ができたとのこと。

あらあら、そらまた、たくさんの方がいるKLとは大違いです。



翌朝からモスクへ行き、ハリラヤハジの始まりのお祈りをしていました。

ちなみにこの村のモスクはたまねぎ型のやつモスクじゃないです。

初めて見ましたが、高床式モスクです。

今回もマレーの男たちがモスクへ行く時に着る「バジュ マラユ」水色を着させてもらいま

した。

ちょっと着慣れた風が出るまもしれません。



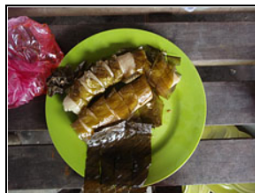


村や地域、年によって牛の生け贄の数は違います。
 今年この村は雄牛1頭。
 モスクでのお祈りを終えた男たちがバジュマラユを着替え動きやすい服装になり、
 マイナイフをポケットに入れて始まりです。
 毎年やっているだけあって、故人の男たちが
 「おおっい！ んっ！」と手際よく順番よく事が進んで
 次から次へと肉塊へと形を変えていきました。





いざ肉が各部位ごとに切り分けられると、男たちはそれを細かく切り
 女たちは肉をつかった料理の準備です。
 小さい村なのでおそらく働き盛りの男たち、女たちの総出の作業です。
 薪を使って大釜で作るので熱いの煙いのなんのって。



「ほれっ。見る。」 みんなマレー語しか喋らないので感じて、
 と言われ、手のひらに乗ったやや薄い色の小さい肉塊
 切ってから数十分経ったはずですが、何やら小刻みに動いています。
 おっちゃんは胸の中心を数回たたいて、こら心臓ですね。
 しばらく時間が経っているはずなのに、しかも小さく切られているのにおそろべし心臓です。

おばちゃんを持つてるのはしっぽ。





作業が一段落したころ、
 この日は金曜日の礼拝の日なので男たちは再びバジュマラユに身を包みモスクへ。
 大人は中でお祈り、子供たちは中に入らず外にいました。
 しかしバジュマラユを着てるのに中へ入らず、
 片言のマレー語を話す日本人が近くにいたので、そりゃ気になりますよね。
 マレー語で「しーっ！ 集中。」って言っても全然集中できてませんでした。





Korban44.JPG



礼拝の後はみんなでご飯。

メニューは

- 1、白ご飯
- 2、牛肉のマレー風カレー（カレー味じゃないけど）
- 4、牛肉煮
- 3、野菜と魚煮のドリアン風味

もうちょっと副菜みたいのがあったかと思いますが、
そんなかんじのコルバン1日目のおいしい昼食でした。



空朝の早朝。

アドナンさんは竹に餅米を入れて炊いたラーマン(lemang)を作っていました。
ラマダンの後のハリヤブアサの時もお米を食べましたが
ハリヤブアサの時も食べるみたいです。
お祝いの料理ですね。

と、この日は毎年恒例ドゥンガン市のコルバン・ペルダナ(Korban Perdana)
市の二番街(1番街の隣)で開ける。このPM約5時、閉ざして、アノア

中の 面白い人達もいる。アトミヤさんやカガシさんを紹介してくれて、いろいろな人や地域からたくさんの方が来て、みんなでコルバンする日です。アドナンさんたちは青い2009年コルバンシャツに着替え朝6時半くらいに村を出発。カンボン・ジェランガウ(Kampung Jerangau)まで約1時間。



牛料理の朝食が用意されて、まずは腹ごしらえ。食後の9時から一言スタートです。全部で30頭なので、そこら中でコルバンしていました。しかしこれまた、どこのグループも手際がいいです。コルバンシャツを着てポケットにマイナイフを入れた男たちはみな職人ですね。切る前にアッラーの何やらの言葉を唱えて、次から次へと肉塊に変わっていきます。



グループによってちょっとずつやり方が違います。





各グループによって持ち運びやすい大きさに切り分けられた肉塊はトラックに積まれ、若者たちの元へ運ばれてきます。



肉がどんどん運ばれてくるので、机の上は肉だらけの大忙しです。一人分でいたい1kgの量に分けられて、さらにそこからまた村ごとの量へと袋詰めされます。おっちゃんたちはコルバンで、若い男衆と女たちはこの仕事らしいです。





贈与式のとバシール・ラジャ分ももらいました。
けっこう重かったです。
肉はちゃんと重さを量ったりするのですが、
頭などの部分は各グループがそれぞれ村へと持ち帰り
村へ戻った後はまた細かく分けられ村人へと配られます。

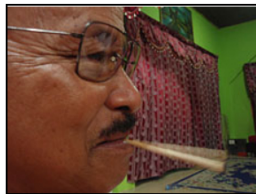




ココナッツ。



おっちゃんもいつも吸ってる手製タバコ。
薄い小さい乾燥した葉っぱでタバコの葉みたいのを巻いて吸ってました。
かなり火が消えやすいですがおっちゃん日く、うまい。と。



当初は1日だけしかコルバンしないのだろう。と思ってましたが
1日目、2日目、さらに3日目もコルバンをするそうです。
じゃあ朝出発して、アドナンさんの後ろに乗って川沿いまで。

「スダ」 「えっ？ スダ？」

スダ とはもう終わったとかの意味です。
残念ながら3日連続コルバンはならず。
少し流れの速い腰くらいまでの深さの川を、切り分けられた肉塊が次々と流ってきます。
この静かな川辺では内臓を洗って切り分けてました。
よく日本で内臓を焼き肉で食べますが、予想以上に草がまんまんに詰まってるんですね。
あれ。 初めて見ました。





船です。
中に詰まってる何やらを草の茎を使って押し出していました。
この作業は川辺のほうがいいですね。
掃除の終わった隅は、さらさらとまとめられます。



そして、コルバンの後はやはりみんなで牛料理。

マレーシアでも過疎化があるらしくて、
若者たちは勉強や仕事をする為に他の町へいかざるを得ません。
この村の若者も一定の年になると他の町の学校へと行きます。
何人かの帰郷した人と話しましたが、そういえば若いちゃんをあまり見てなかったです。
話した人は街のコルバンは、ただ事をやるだけだと言っていて
バシール・ラジャの村人総出のコルバンを誇りに思っていました。
続いてほしいですね。

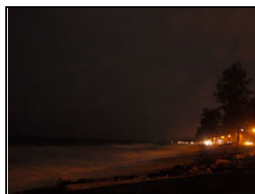




焼きバナナ。
なにやら食べたあとに口の水分を持っていかけますが、味は芋みたいでおいしいです。



と、そんなこんなのコルバンデイス。
なにせ英語が通じないので、マレー語も少しずつですがチャレンジして話しています。
サヤ ポレ チャッカッ シキ バイサ マラユ。なんて。
今回も最後まで親切にいただきました、ありがとうございました。



ではでは、次はどこへ行こうか。

